



株式会社ライスアイランド  
〒500-8322  
岐阜市香取町3-38  
電話 058 (253) 0310  
FAX 058 (252) 5115  
2004年11月08  
vol.88 担当 島田

ライスアイランド

# R.I. weekly レポート

～シリアル・ルネッサンス～

<http://www.riceisland.co.jp>

## 高まる雑穀の認知 日本雑穀協会が設立

2004年10月、シンクタンクの三井物産戦略研究所と食品メーカー・流通、その他学識経験者 自治体関係者などが集まり「日本雑穀協会」を設立いたしました。協会の設立の趣旨は、古来より日本の主食を支えてきた原点である雑穀の価値を見直し、一般消費者に普及・啓蒙を行います。また下記活動を行うことで環境や食料自給率の面からも寄与していくことを目的としております。

10/24 朝日新聞より

- 1 雑穀の普及・啓蒙
- 2 雑穀の機能性等の研究
- 3 雑穀に関する料理、加工品の開発
- 4 雑穀市場の健全な育成
- 5 雑穀生産農家の育成・支援
- 6 雑穀の生産・加工・流通関係者の連携支援
- 7 雑穀に関する資格制度の運営
- 8 その他本協会の目的を達成するために必要な事業活動及び関係団体・個人との連携

上記に対しR.Iは今まで次のような取り組みをしてまいりました。

- ① 雑穀の普及・啓蒙として「素食のすすめ」などレシピブックを作成、アンテナSHOP「ライスアイランドエキスポ」などオープン。
- ② 生産者団体・農協などと組み産地の開発。
- ② 量販店において、お米関連商品として雑穀コーナーの展開。(一般消費者の買いやすさを大切にしました。)
- ④ 業務用としての用途開発。
- ⑤ 雑穀の安心・安定供給のため自社輸入。

■ライスアイランド(岐阜米穀)も理事として参加し、生産・流通・販売まで雑穀市場の育成によりいっそう努めて行きたいと考えています。

**「雑穀を食べよう」  
異業種集まり協会**  
研究者・企業など

キビやヒエ、アワなどコメ以外の「雑穀」を家庭や学校などに広げようと、三井物産戦略研究所や食品製造・卸会社などが「日本雑穀協会」を設立した。かつて日本の食文化に根付き、栄養価も高い雑穀を見直し、食糧自給率の向上も目指すという。機関誌や展示会などを通じた普及活動に加え、雑穀の産地、効能や料理法などの知見を備えた「雑穀ソムリエ」の資格も作る。

協会にはキッコーマンなど食品製造・卸会社9社に加え、学識経験者や自治体関係者も参加。地方の農業振興を兼ねた産地育成を試みる。

雑穀の原種の種子も協会で取りそろえ、生産農家や学校での栽培向けなどに提供する考えだ。参加者の一人、食文化史研究家の永山久夫氏は「日本人はコメだけでなく、雑穀も合わせて食べてきたことで、(老化防止などに効く)抗酸化成分を多く摂取できた。雑穀は生命力も強く、コメが不作のときの補充ができる」と話す。

同協会によると、代表的な雑穀のキビ、アワ、ヒエの自給率は約3%。最近の健康志向から、ご飯に混ぜるだけでなく加工食品も現れ、市場規模は約100億円という。同協会は安全、安心の観点からも国内産の雑穀の育成を図る考えだ。

日本雑穀協会 役員名簿		
園田 正彦	株式会社三井物産戦略研究所	国土・地域振興室 室長
小泉 武夫	東京農業大学応用生物科学部	教授
内田 弘	ベストアメニティ株式会社	代表取締役社長
長澤 重俊	株式会社はくばく	代表取締役社長
石川 善雄	有限会社石川商店	代表取締役社長
茂木 健三郎	キッコーマン株式会社	取締役常務執行役員
小塩 幹雄	岐阜米穀株式会社	代表取締役社長
河地 富晴	ベータ食品株式会社	代表取締役社長
奥村 正明	奥村商事株式会社	代表取締役社長
海東 英和	滋賀県新旭町	町長
永山 久夫	食文化史研究家	
松田 美智子	料理研究家	
中村 靖	株式会社創健社	代表取締役社長
寺島 実郎	財団法人日本総合研究所	理事長
須磨 佳津江	キャスター (NHK 趣味の園芸他)	
家森 幸男	京都大学名誉教授	